

「学生」×「地域」カフェ

「多文化共生啓発イベント」との連携について

三重県戦略企画部企画課

1 多文化共生啓発イベントについて

県多文化共生課は、「みつめる かんじる ふれあう～あなたがつくる笑顔のつながり～」をテーマにして、平成 25 年 12 月 7 日（土）に、亀山市立亀山西小学校を主会場にした多文化共生啓発イベントを開催しました。（県多文化共生課が、亀山市主催のヒューマンフェスタと同時開催）

ブース展示と 4 つの教室を用いた交流イベントを計画しており、そのうち 1 つの教室を用いたイベントとして、「多文化共生」の大切さを広く知っていただくため、日本と海外の文化の違いを再認識できるようなワークショップを、学生自ら企画立案・運営することになりました。

なお、運営にあたっては、多文化共生課のほか、三重県国際交流員、JICA（国際協力機構）職員が連携・協力しました。

学生主体のワークショップテーマ「世界を知って『新』発見！」

（参考）他の 3 つのワークショップ

- ・ 亀山市による多文化共生講座（市民活動団体：亀山国際交流の会（KIFA）はじめのいっぽ日本語教室）
- ・ 三重県国際交流員によるワークショップ
- ・ JICA（国際協力機構）による展示・体験談・民族衣装試着体験

2 取組概要

県内高等教育機関の学生を募集したところ、四日市看護医療大学の学生と三重大学大学院の留学生が延べ 8 名参加しました。（うち 4 名はイベント当日のみ）（その他当日の参加者として留学生 3 名が参加）

イベントの企画検討会を計 3 回開催し、企画案のアイデア出し、イベント当日の進め方やそのための準備等について、学生同士で活発な意見交換を行いました。

企画案を検討した結果、ワールドカフェ方式により、「教育」・「医療健康」・「家庭」・「食文化と農業」の 4 つのテーマ毎に 5 名程度のグループに分かれて、ワークショップ（意見交換と発表会）を行うことになりました。

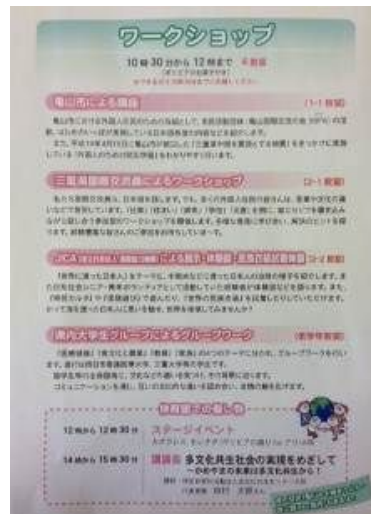
ワークショップの全体の司会とグループの進行役を決定したうえで、意見交換のテーマごとに、海外の文化や習慣等の違いについて、学生自ら資料収集したり、国際交流員にヒアリングを行うなど、イベント当日にむけた準備も積極的に行いました。



第1回検討会 平成25年10月4日(金)
 企画案のアイデア出し、ワークショップのテーマ、
 役割の決定

第2回検討会 平成25年11月5日(火)
 イベント当日の運営方法の検討、国際交流員への
 ヒアリング

第3回検討会 平成25年11月29日(金)
 イベント当日の最終打ち合わせ



イベントの運営 平成25年12月7日(土)
 会場準備(教室の飾り付け、四日市看護医療大学インドネシア看護師サポートチーム
 の活動紹介の展示)

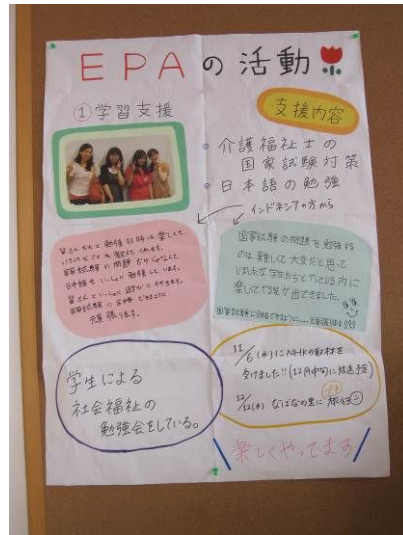
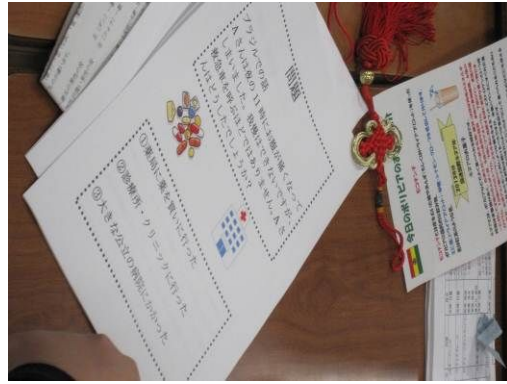
ワークショップ(アイスブレイク、グループディスカッション、発表)

午後からのイベント(自由参加)

- ・ブース展示(民族衣装体験コーナー、国際貢献活動パネル紹介等)
- ・ステージイベント(中学生の人権作文発表、高校生の人権スピーチ、講演会)

イベントの合間に、四日市看護医療大学のIN(インターナショナルナースィング)会の
 学生が、当会主催の国際交流会(平成26年2月1日)の留学生向けチラシの案内配布
 や外国人の医療問題に関するアンケート調査を実施しました。





- ・ワークショップのグループの進行役の学生は、テーマに関連する話題を事前にしっかり準備し、パソコンを用いた説明やイラスト入りのクイズ形式の資料提供など、参加者の関心を引くような創意工夫をしました。
- ・各テーブルとも、参加者が、学生の話に熱心に耳を傾け、会話も弾んでいたため、参加者の満足度も高いワークショップになりました。